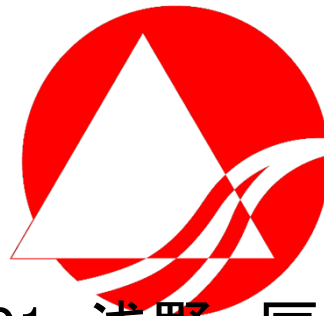


カリキュラム・授業開発コース科目  
「秋田型アクティブラーニングの授業デザインと評価」

# 学びの概念図



2521401 浅野 匡平

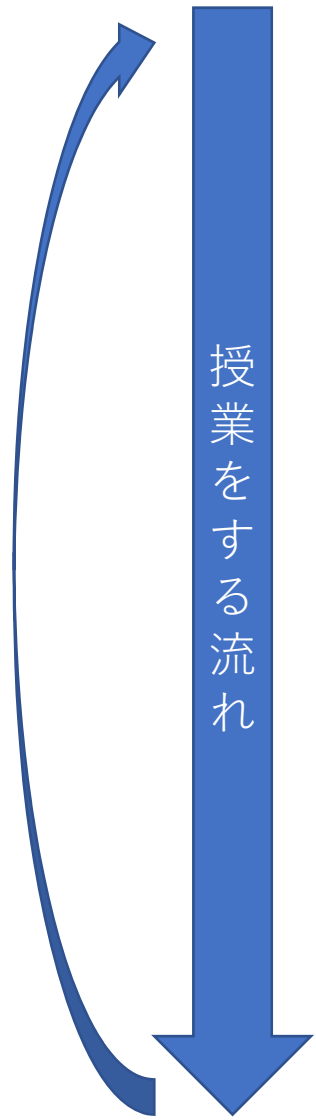
2521402 阿部 倫己

2521403 佐々木 健真

秋田大学大学院教育学研究科教職実践専攻  
2022年1月

# 主体的・対話的な学びを 実現するために大切なこと

2521401 浅野匡平



## ①児童の実態分析・目標設定

- 児童の実態に適した目標を設定する。  
簡単すぎる・難しすぎる目標では、児童はやる気が出ない。**努力すれば到達できる**レベルの目標設定をする。
- 活躍の場・つまづく場を想定する。  
授業中や普段の児童の様子から、**児童の反応やつまづきやすいポイントを予想**し、それに合わせた支援を行う。

## ③授業

- 児童と一緒に学ぶ姿勢をもつ。  
教師の考えの答え合わせのような授業になってしまわないためにも、**教師が児童と一緒に探求する姿勢をもつ**。
- 意欲を高める言葉かけをする。  
**上手くできたことは褒める、課題点はしっかり伝える**など、児童の学習意欲を高めるような言葉かけを積極的に行う。
- 必要感を得られる発問をする。  
児童が意欲的に問題に取り掛かれるように、既習事項と比較してできないことが分かるようにしたり、生活場面などつなげて問題を考えたりして、**必要感を得られる**ように工夫する。
- 学びを振り返る時間を用意する。  
児童が授業を通して成長できたことを実感できることが、学びへの意欲へとつながる。**自分の成長を実感できるような振り返り**の視点を考えておく。

## ②教材研究

- 目標に沿った教材を選択する。  
目標に合った教材を選択しなければ、授業の本来の目的を外れていってしまう。その**教材で学べる事と学びにくいことを理解して用いなければいけない**。
- 他単元とのつながりや系統を意識する。  
授業中や普段の児童の様子から、**児童の反応やつまづきやすいポイントを予想**し、それに合わせた支援を行う。

## ④授業の振り返り

- 自分の授業について反省し、次の授業に生かす。  
「授業をして終わり」ではなく、授業のなかで児童は主体的に学んでいたか、対話的に学んでいたかを振り返り、**良かった点や悪かった点をまとめておく**。そして、**次の授業に反省した内容を生かす**ことで、より良い授業をつくっていく。

# 教科横断的視点から考えるアクティブ・ラーニングの在り方

～算数・数学科と社会科の比較を通して～

2521402 阿部倫己

## ○算数・数学科(講義前半)での学びのポイント

### ①発問の精選

→児童の気付きを教師が奪わないように、児童の実態や実際の反応に応じて発問の仕方を変えることが必要である

### ②児童が数学的見方・考え方を働かせられる文脈や状況の設定

→児童の視点に立った教材研究を通して、児童が着目する点や既習内容を基として考えることを予め想定

## ○社会科(講義後半)での学びのポイント

### ①児童が切実感をもてるような授業内容

・「不思議だな」「なんでだろう」を引き出す  
→こうした思いがやる気につながり、授業の面白味になる

### ②子どもが触れる資料の精選

授業のゴールに児童自身が資料を通して到達する必要  
→教師の見方・考え方を意識した教材研究

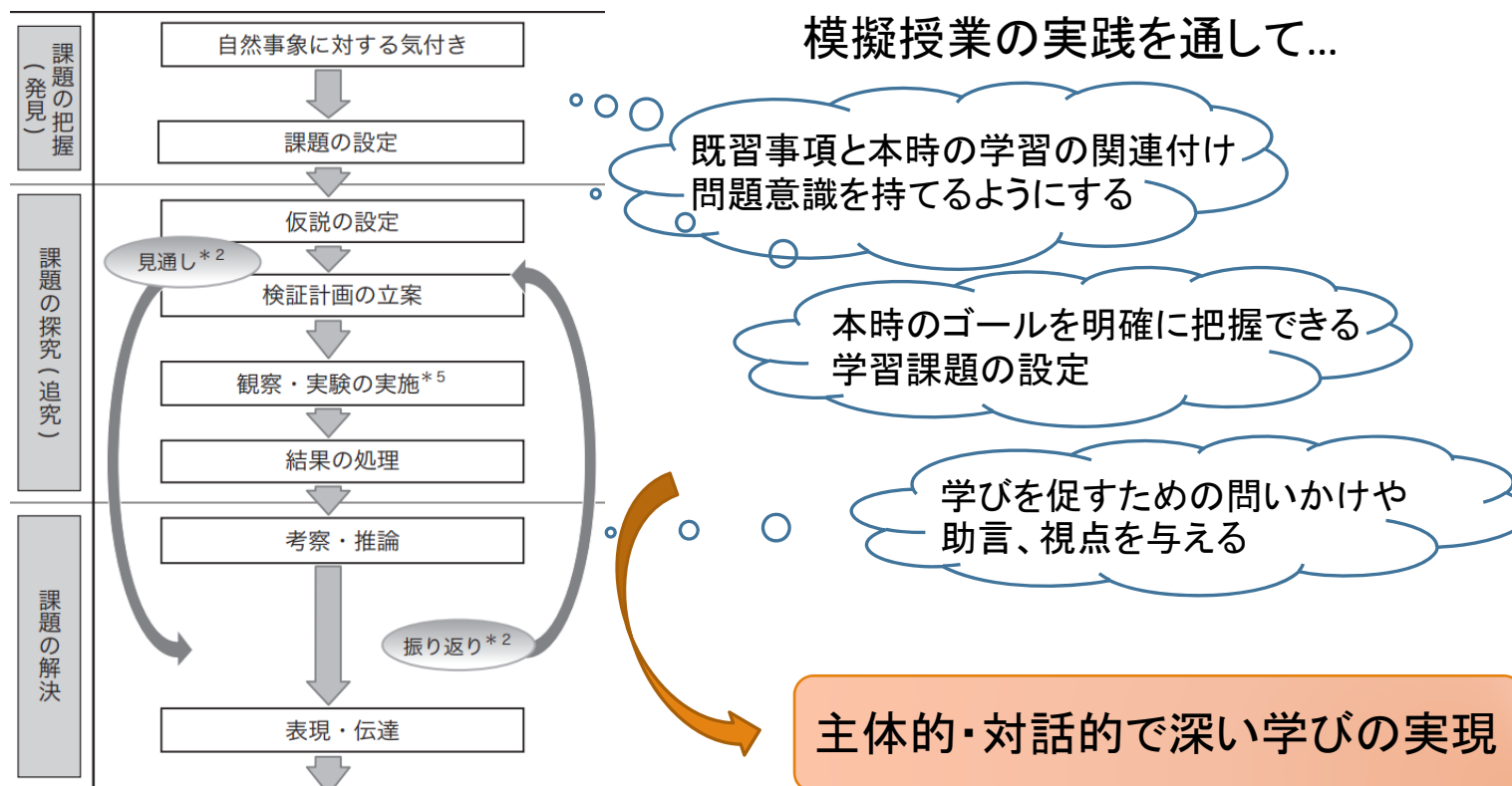
～共通点～

- ・児童の思考や反応を想定する必要性
- ・使用教材の精選
- ・児童の思考と活動、以降の学びを関係付ける

## ◎アクティブ・ラーニングの在り方について

- ・「活動だけで学びがない」ことにならないように、児童の思考そのものを活発化できるように。
- ・児童が「思考」したことを外化する場を設定する。  
Ex) 他の人に説明する、実生活に反映する
- ・授業での学びが実生活や以降の学びに役立つことを意識すること。  
→アクティブ・ラーニングを通して活きた知識を児童が身に付けられるように！
- ・教師自身の教材研究や学習材の調査などといった学びも重要である。

# 理科における主体的・対話的で深い学びのための授業改善



探究の過程の図  
中学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編 p.9